

マンツーマンディフェンスの基準規則の一部変更 20191215

JBA マンツーマン推進プロジェクト

マンツーマンディフェンスの基準規則の一部変更については、以下の対応により実施する。

1. マンツーマンペナルティの罰則の変更

- 【現行ルール】 マンツーマンペナルティとテクニカルファウルの扱いは同じであるため、下記文言を適用する。
- テクニカルファウルが宣せられた場合、1本のフリースローのみ速やかに与えられる。テクニカルファウルによるフリースローの後、テクニカルファウルが宣せられた時にボールのコントロールを得ていたか、与えられることになっていたチームによって、テクニカルファウルが宣せられた時の状態からゲームは再開される。
- 【変更理由】 現行の罰則では、マンツーマンディフェンスの基準規則に違反したチームのスローインから再開されるケースが多いため。
- 【新ルール】 マンツーマンペナルティの罰則は、相手チームに1本のフリースローが与えられ、フロントコートのスローインラインからのスローイン（U15）または、スコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上からのスローイン（U12）で再開する。

<新旧対照表>

● マンツーマンコミッショナーの設置および競技会（試合）における運用について

旧	新（太字が変更部分）
<p>〔審判の任務〕</p> <p>(2)2回目の「赤色（警告）」の旗が上げられた場合 「赤色（警告）」の旗が上がり、それが同じチームの2回目以降の違反行為の場合は、最初にゲームクロックが止まった際、主審はTO席の前に両チームのコーチを集め、コミッショナーからの説明後に、当該コーチに対しマンツーマンペナルティを宣する。</p> <p>※ 相手チームに1本のフリースローを与える。</p> <p>※ 他の罰則によるフリースローがある場合は、(5)のとおり処置を行う。</p> <p>(5)他の行為による罰則と基準規則違反による罰則（マンツーマンペナルティ）が重なった場合 (2019年4月1日からの新ルール適用により)</p> <p>・テクニカルファウルが宣せられた場合、1本のフリースローのみ速やかに与えられる。テクニカルファウルによるフリースローの後、テクニカルファウルが宣せられた時にボールのコントロールを得ていたか、与えられることになっていたチームによって、テクニカルファウルが宣せられた時の状態からゲームは再開される。</p>	<p>〔審判の任務〕</p> <p>(2)2回目の「赤色（警告）」の旗が上げられた場合 「赤色（警告）」の旗が上がり、それが同じチームの2回目以降の違反行為の場合は、最初にゲームクロックが止まった際、主審はTO席の前に両チームのコーチを集め、コミッショナーからの説明後に、当該コーチに対しマンツーマンペナルティを宣する。</p> <p>※ 相手チームに1本のフリースローが与えられ、そのチームのフロントコートのスローインライン（U12ではスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上）からのスローインで再開する。</p> <p>※ 他の罰則によるフリースローがある場合は、(5)のとおり処置を行う。</p> <p>(5)他の行為による罰則と基準規則違反による罰則（マンツーマンペナルティ）が重なった場合</p> <p>（削除）</p>

<p>・マンツーマンペナルティとテクニカルファウルの扱いは同じであるため、上記文言を適用する。</p> <p>・他の行為による罰則と基準規則違反による罰則が重なった場合、コミッショナーによる説明を行った後、マンツーマンペナルティの罰則を適用した後、他の罰則の処置を行う。</p> <p>«注意»</p> <p>基準規則違反によるマンツーマンペナルティの罰則が適用される前に、新たに別のテクニカルファウルが宣せられた場合など、罰則の重さが等しい場合は競技規則第 42 条『特別な処置をする場合』に従い、処置をする。</p> <p>但し、ミニバスケットボールでの適用については、「友情・ほほえみ・フェアプレーの精神」により、全て罰則を平等に適用することが望ましいとの考えから、競技規則第 42 条を適用せずに、起きた順序に従ってすべてのフリースローを行う。</p> <p>(6) その他</p> <p>・コミッショナーの「赤色（警告）」の旗の対応とタイムアウトの請求が重なった場合は、コミッショナーの説明を済ませた後、審判がタイムアウトを宣する。罰則（マンツーマンペナルティ）が適用される場合は、タイムアウトの後、フリースローを行い、マンツーマンペナルティが宣せられたときにボールのコントロールを得ていたか、与えられることになっていたチームによって、マンツーマンペナルティが宣せられたときの状態からゲームを再開する。</p>	<p>・他の行為による罰則と基準規則違反による罰則が重なった場合、コミッショナーによる説明を行った後、起きた順序に従って処置を行う。</p> <p>«注意»</p> <p>基準規則違反によるマンツーマンペナルティの罰則が適用される前に、新たに別のテクニカルファウルが宣せられた場合は、テクニカルファウルの処置を行った後、マンツーマンペナルティの罰則を適用する。マンツーマンペナルティの罰則は、競技規則第 42 条『特別な処置をする場合』の対象外とする。</p> <p>但し、ミニバスケットボールでの適用については、「友情・ほほえみ・フェアプレーの精神」により、全て罰則を平等に適用することが望ましいとの考えから、競技規則第 42 条を適用せずに、起きた順序に従ってすべてのフリースローを行う。</p> <p>(6) その他</p> <p>・コミッショナーの「赤色（警告）」の旗の対応とタイムアウトの請求が重なった場合は、コミッショナーの説明を済ませた後、審判がタイムアウトを宣する。罰則（マンツーマンペナルティ）が適用される場合は、タイムアウトの後、相手チームに 1 本のフリースローが与えられ、そのチームのフロントコートのスローインライン（U12 ではスコアラーズテーブルの反対側のセンターラインの延長線上）からのスローインで再開する。</p>
--	--

2. 適用時期

2020 年 4 月 1 日より適用とする。ただし、以下の 2 大会においては先行して実施する。

- ・第 51 回全国ミニバスケットボール大会
- ・全国 U15 バasketボール選手権プレ大会

3. 補足

- ・「マンツーマンディフェンスの基準規則」は、U12、U15 カテゴリーにおける日本国内の独自ルールであり、罰則についても独自のものが認められることについては、**JBA 審判セクションにおいて確認済である。**

4. 今後の予定

2 月 23 日	全国審判長会議にて伝達
3 月下旬	全国ミニバス、U15 選手権プレ大会にて先行実施
4 月 1 日	全国にて施行